

< 悪魔と天使の法学入門第12話 > 教員の本務と雑務

著者	星野 豊
雑誌名	月刊高校教育
巻	41
号	3
ページ	90-91
発行年	2008-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/105944

【悪魔】 最近あった報道によると、体や心を壊してしまつて休職する教員の数がずいぶん増えていそうですね。教員の仕事はそんなに大変なのですか？

【天使】 職場によって多少の差はあるが、かつてと比べてストレスの蓄積する要因が増加していることは否定できないだろう。社会が発展して複雑化することにより、教育に必要な知識の量は増加する一方だし、生徒も保護者も多様化してきて、個々の配慮が必要とされるに到っている。

他方で、かつての常識からは想像することもできなかったような事件が学校を巻き込むようになっており、それに対しても教員は神経を使わなければならない。さらに、教育に対して充てられる予算と人員がかつてのように潤沢でなくなり、教員のさらなる負担増をもたらしているわけだ。

【悪魔】 残業手当もつかない制度になっているのに本当にお疲れ様としか言いようがありませんが、ただ、今おっしゃったような事情なら、

悪魔と天使の法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第12話

教員の本務と雑務

この御時世ではどの職業も似たようなものでしょう？ これまで余裕があり過ぎたために、世間並みの仕事量になったことで耐えられない人が出てきた、ということではないですか？

【天使】 そんな失礼な物言いがあるか。圧倒的多数の教員は、場合によっては本来の職制上の必要性を超えてまで多様な業務を引き受け、かつ、本来の職務である生徒の教育に向かって最大限の努力をしているのだ。その献身的な姿勢に対して敬意を払うどころか揶揄するようなことを言うなど到底許し難い。

【悪魔】 おっと失礼。でも、努力していることに敬意を払うべきだ、という御意見が出ることで自体、普通の仕事とずいぶん違うな、という気がしますね。どんなに頑張ったところで、それに見合った結果が出ないのであれば、それは無駄な努力をしている可能性があるわけですから、仕事のやり方を一から見直す必要があるはずですよ。

それに、仕事の量が多くなっている原因を、もう少し冷静に考え直してみる必要もあります



よね。特に本来の仕事でない部分について、手作業ばかりでなくコンピュータなどの機械を使ったり、全部自分たちで背負い込むのではなく専門の業者に委せたりして、時間や労力を節約できるところが、今の教員の仕事にはずいぶんあるような気がしますよ。

【天使】

それは教職には適切でない対応策だ。私企業は事業の結果としての経済的利益が増加することが最大にして唯一の目的だから、あらゆる局面での合理化を強調することになるのだろうが、教職は、生徒の円満な人格形成のために、教員と生徒との無形の信頼関係が特に重要となる。無機質に合理化された機械的作業からは、そのような精神的な紐帯ちゆうたいは形成されようがない。

昨今の学校教育に対しては、一部の教員の不祥事のために社会からの批判的視線が非常に厳しくなっており、信頼回復のために個々の教員の誠実な努力が否応いや無しに要請される構造になっている。

現実に努力し苦勞している教員たちの置かれている立場を生徒たちにも十分説明して、両者



の信頼関係を深めることが今こそ必要だと言えるだろう。

【悪魔】

精神論ばかり振りかざして、一番大事なところが全然見えていないんじゃないかな。そんなに子どもたちとの心のつながりが大事なのなら、本来の仕事と関係のないものはけいさつと片付けて、じっくり子どもたちと向き合う時間を作らなきゃいけませんよね。

子どもたちの人格を円満に育てるためには、教員が適正な時間内に自分の仕事をきちん終わらせて、人間らしい生活を楽しんでいる姿を子どもたちに見せなければならぬはずでしょう？

それなのに、義務でもない仕事まで抱え込んで肝心の子どものための教育に対する時間と労力が割けなくなり、挙げ句の果てに自分の心も体も壊してしまうなんて、本末転倒もいいところですよ。雑用で疲れきって体力も気力も失いかけている教員の姿から子どもたちが学ぶものは、仕事の目標を見失ったサラリーマンの哀しさを、自分の未来の姿として映してみるだけじゃないですかねえ。